

「(仮称) 第 10 次宇都宮市交通安全計画」策定に向けた現状及び課題について (概要版)

交通環境や社会情勢

別紙 1 「本市の交通環境等について」

〔道路交通環境〕

- 南北に東北自動車道・国道 4 号・新 4 号国道、東西に国道 1 2 3 号線、大谷街道が通り日光街道など 7 路線が放射線状に通る
- 外環状線、内環状線が開通し都心環状線の整備が進められている
- 北関東自動車道路と新 4 号国道が「宇都宮上三川 I C」で接続、宇都宮北道路が開通
- 平成 31 年度を目標に LRT 開業を目指している
- 総車両保有台数は増加傾向 (H22 比 62, 284 台)
- 道路延長は市道が 89.6%, うち 5.5m 未満が 54.7%
- 自転車走行空間の整備延長は 17.6 km

〔人口動態等〕

- 人口は緩やかに増加 (H22 比 13, 162 人)、老年人口が増加
- 免許保有人口は増加 (H22 比 10, 939 人)

〔道路交通法改正〕

- 自転車の通行方法等が変更 (路側帯通行など)
- 悪質自転車運転者に対し講習が義務付け
- 悪質・危険自動車運転者への罰則等が強化

市民の意識

別紙 3 「アンケート結果について」

〔交通ルール遵守、マナーについて〕

- 交通ルール、マナーが「良い」「少し良い」と感じる人は 21% で緩やかに上昇傾向
- 一方、「悪い」「少し悪い」と感じる人は 76.3%
- その中で、高齢者、若年の自動車運転者のマナーが悪いと感じている人が多い
- 「合図を出さない。出すのが遅い」、「狭い道を無謀なスピードで運転する」場面を悪いと感じている人が多い

〔市内自転車利用者の意識調査〕

- 「車道は左側を通行」の認知度は 72%
- 学校での交通安全教育の実施を求めている
- 自転車保険の認知度 85% のうち加入者 31%
- ルール、マナーの満足度は 15.6%

交通事故の状況

別紙 2 「本市の交通事故について」

〔交通事故発生状況〕

- 発生件数、死者数、負傷者数は減少傾向
- 死者数は夕方から深夜・早朝が多い
- 人口当たり発生件数は中核市平均を下回り、死者数は上回る

〔年代別〕

- 幼児・児童
 - ・幼児は「二輪・四輪車乗車中」が 82.6%
 - ・児童は「歩行中」「自転車乗車中」が 58.6%
- 中学生・高校生
 - ・中学生の 67.6%, 高校生の 70.4% が「自転車乗車中」
- 若者 (16~24 歳)
 - ・人口当たりの発生件数及び死者数が多い
 - ・「四輪乗車中」が 89.3%
- 25 歳~64 歳までの世代
 - ・「四輪乗車中」が 94.7%
- 高齢者 (65 歳~)
 - ・全交通事故に占める割合が増加傾向 (H22, 24.2%⇒H26, 28.3%)
 - ・全体の死亡事故のうち 50% を占める
 - ・第 1 当事者の世代別割合が増加 (H22, 14.0%⇒H26, 17.9%)
 - ・歩行中・自転車乗車中の事故は住所地から 500m 以内で発生する割合が高い (500m 以内: 65 歳以上, 30%, 65 歳未満, 18%)

〔事故類型・状態別〕

- 車両相互
 - ・全交通事故の 85.4% を占める
 - ・自転車の交通事故発生件数は全交通事故に占める割合が 21% 台と横ばい傾向
 - ・自転車の交通事故は「子どもから高校生」「高齢者」で 53.7% を占める
 - ・自転車の事故は交差点で 89.8% 発生
- 人対車両
 - ・歩行者の交通事故は割合が増加傾向 (H22, 7.0%⇒H26, 7.9%)
- 車両単独
 - ・車両単独の事故は増加傾向 (H23, 107 件⇒H26, 133 件)

〔道路別〕

- 国道、県道等では単路での事故が多い
- 市道で 43.5% が発生、うち交差点 50.7%

〔死亡事故〕

- 夏から秋にかけて増加する傾向
- 死者の 57.1% がシートベルト非着用

〔その他〕

- 飲酒運転による事故は減少したが、23 件発生

現行計画の目標と実績

別紙 4 「第 9 次宇都宮市交通安全計画の実績評価について」

■ 目標値

① 交通事故発生件数

目標値：1, 800 件以下 (平成 27 年)

項目	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
発生件数	2, 535 件	2, 576 件	2, 363 件	1, 966 件
増減数	▲508 件	41 件	▲213 件	▲397 件
増減率	▲16.7%	1.6%	▲8.3%	▲16.8%

◆ 達成状況

・交通事故発生件数は、減少傾向にあるものの、目標は達成していない。平成 26 年は、過去最少値となっている。

② 交通事故死者数

目標値：14 人以下 (平成 27 年)

項目	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
死者数	18 人	18 人	13 人	17 人
増減数	▲10 人	0 人	▲5 人	4 人
増減率	▲35.7%	0%	▲27.8%	30.8%

◆ 達成状況

・交通事故死者数は、平成 25 年に過去最少値である 13 人となり一時目標を達成したが、平成 26 年は増加に転じており、14 人以下の目標を達成していない。

③ 交通事故負傷者数

目標値：2, 200 人以下 (平成 27 年)

項目	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
負傷者数	3, 102 人	3, 225 人	2, 938 人	2, 416 人
増減数	▲729 人	123 人	▲287 人	▲522 人
増減率	▲19.0%	4.0%	▲8.9%	▲17.8%

◆ 達成状況

・交通事故負傷者数は、減少傾向にあるが、目標を達成していない。平成 26 年は、過去最少値となっている。

■ 個別施策における主な実績 別紙 4-2

〔施策の柱 1〕市民一人ひとりの交通安全意識の向上

① 交通安全教室の推進

・高齢ドライバーへの体験型教室受講者数 (H27 目標 1, 300 人) H23/585 人, H24/1, 143 人, H25/858 人, H26/1, 805 人

・老人クラブ等での交通安全教室受講者数 (H27 目標 5, 700 人) H23/3, 246 人, H24/2, 844 人, H25/2, 910 人, H26/2, 542 人

・高齢者戸別訪問の実施数 (累計) (H27 目標 9, 600 世帯) H23/3, 763 世, H24/7, 853 世, H25/11, 483 世, H26/13, 713 世

・スクートストリート方式等教室の開催回数 (H27 目標 6 回) H23/5 回, H24/7 回, H25/9 回, H26/9 回

② 自転車利用者への交通安全教室の推進

・プロスポーツチームの自転車安全利用の取組導入学校数 H23/3 校, H24/5 校, H25/7 校, H26/7 校 (H27 目標 16 校)

③ 交通安全運動の推進

・年 4 回の交通安全運動を地域や警察等と連携して実施

④ 広報啓発活動の推進

・市HPや広報紙、街頭活動等を通して広報啓発を実施

〔施策の柱 2〕地域住民と連携した道路交通環境の整備

① 交通事故多発地点の安全性向上事業

・交通事故多発地点対策箇所数 (累計) (H27 目標 19 箇所) H23/6 箇所, H24/12 箇所, H25/16 箇所, H26/19 箇所

② 自転車や歩行者の通行空間の確保

・自転車走行空間の整備延長 (H27 目標 25.4 km) H23/14.5 km, H24/16.9 km, H25/16.9 km, H26/17.6 km

③ 交通安全に配慮した道路交通環境の整備

・道路標識や防護柵等を必要に応じ整備、更新等の実施

・地域内交通の導入路線数は増加

〔施策の柱 3〕地域における道路交通秩序の維持

① 自転車の交通事故防止のための街頭活動

・街頭指導の実施箇所数 (H27 目標 6 箇所) H23/1 箇所, H24/7 箇所, H25/7 箇所, H26/7 箇所

② 暴走族や飲酒運転を許さない地域づくり

・広報紙や街頭活動等を通して暴走族や飲酒運転に対する取組を実施

〔施策の柱 4〕救助・救急対策の推進

・救急救命士の計画的養成、応急手当講習会を実施

〔施策の柱 5〕被害者対策の推進

・交通安全教室等を通して被害者支援に関する広報を実施

重点施策の評価・課題

別紙4 「第9次宇都宮市交通安全計画の実績評価について」

(1) 高齢者の交通事故防止

◆評価

- ・高齢者の交通事故発生件数や人口当たり交通事故当事者数は減少傾向にあり、実施している施策が高齢者の安全確保に寄与しているといえる。

(課題等)

- ・加害者（単独事故を含む）となる事故や歩行中、自転車乗車中の事故は増加又は横ばい傾向
⇒加齢による身体機能の低下が運転に及ぼす影響を理解させるための教育や歩行者、自転車乗車中の事故を防止するための対策にさらに取り組んでいく必要がある。
- ・交通事故全体に占める高齢者の事故の割合が増加
⇒高齢者の交通安全を図る取組を充実していく必要がある。

(2) 若年ドライバーの交通事故防止

◆評価

- ・20代の自動車乗車中の第一当事者の交通事故発生件数は減少傾向にあり、警察や市等が実施している施策が、若年ドライバーの安全確保に寄与しているといえる。

(課題等)

- ・人口当たりの交通事故発生件数は依然として他の年代より多い傾向
⇒若年ドライバー対策に取り組んでいく必要がある。

(3) 自転車の交通事故防止

◆評価

- ・自転車の交通事故発生件数は減少傾向にあり、自転車の安全確保に関する施策が事故削減に寄与しているといえる。世代別では全ての世代で減少する中、特に中学生の事故当事者数の減少率が高く、自転車安全利用に関する教育等の施策の効果があつたものといえる。

(課題等)

- ・交通事故全体に占める自転車事故の割合は県16%、国19%より高い21%を占める
⇒自転車の安全利用に関する施策を推進していく必要がある。

(4) 市民の生活に密着した道路の交通安全対策

◆評価

- ・市道における交通事故発生件数は減少傾向にあり、市道に対し交通安全を図る施策が事故削減に寄与したといえる。

(課題等)

- ・市道における交通事故には特徴的な傾向がある
⇒詳細な交通事故データの分析や地域の実情等に応じた効果的な交通安全対策を実施していく必要がある。

施策の柱における評価・課題

別紙4 「第9次宇都宮市交通安全計画の実績評価について」

(1) 市民一人ひとりの交通安全意識の向上

成果指標：交通マナーを『良い』『少し良い』と感じる市民の割合

H22	H23	H24	H25	H26	⇒	H27
—	19%	20%	21%	21%		増加させる

◆評価

- ・本市の交通マナーを「良い」「少し良い」と感じる市民の割合は、計画期間中に2ポイント上昇しているもののほぼ横ばいに推移している。しかしながら、本市の交通事故発生件数は、現計画策定時から減少しており、実施してきた各種の交通安全施策が効果をあげていることを考慮すると、交通安全意識も向上していると考えられる。

(課題等)

〔子どもから高齢者まで生涯にわたる交通安全教室の推進〕

- ・高齢者の交通事故傾向を踏まえた交通安全教育の拡充を図っていく必要がある。
- ・若年ドライバーに対する交通安全教育を充実させる必要がある。

〔自転車利用者への交通安全教育の推進〕

- ・全ての自転車利用者に対する交通安全教育を充実させる必要がある。
- ・自転車用ヘルメットの着用を促進する対策を講じる必要がある。

〔交通安全運動、広報啓発活動の推進〕

- ・交通安全運動の展開や有効な情報提供など広報啓発活動を継続して実施していく必要がある。
- ・自転車任意保険への加入を促進する対策を講じる必要がある。

(2) 地域住民と連携した道路交通環境の整備

成果指標：生活道路における交通事故発生件数（年間）

H22	H23	H24	H25	H26	⇒	H27
1,409件	1,118件	1,183件	1,072件	856件		850件以下

◆評価

- ・生活道路における交通事故発生件数は減少しており、実施してきた施策が一定の効果を上げているものと考えられる。

(課題等)

- ・交通事故多発箇所等に対し事故データの調査研究を踏まえた地域や警察等と連携した対策を継続して実施していく必要がある。
- ・自転車や歩行者の通行空間を確保する施策を継続して実施していく必要がある。
- ・交通安全に配慮した道路交通環境の整備や公共交通機関の充実により円滑な道路交通を確保していく必要がある。

(3) 地域における道路交通秩序の維持

成果指標：自転車通行実態調査における違反行為の割合

H22	H23	H24	H25	H26	⇒	H27
56.4%	47.1%	43.0%	39.8%	39.3%		30%以下

◆評価

- ・成果指標は目標値に達していないものの、自転車の交通事故発生件数は減少傾向にあることから地域や学校等と連携した街頭指導等の交通安全活動が一定の効果を上げているといえる。

(課題等)

- ・地域や学校等と連携した効果的な街頭指導等の充実を図る必要がある。
- ・交通安全推進協議会など地域活動を促進していく必要がある。
- ・地域ぐるみの飲酒運転対策等を継続して実施していく必要がある。

(4) 救助・救急対策の推進

◆評価

- ・救急救命士を計画的に養成し、救助救急体制の充実が図られている。また、応急手当講習会を実施することで、応急手当等に関する普及、啓発が図られている。

(課題等)

- ・交通事故による負傷者に対する救助救急体制を充実させる必要がある。
- ・応急手当に関する知識・技術の普及促進をしていく必要がある。

(5) 被害者対策の推進

◆評価

- ・交通安全教室と併せて「命の大切さを学ぶ授業」を実施するなど被害者支援についての周知を実施しており、被害者対策の推進が図られている。

(課題等)

- ・関係機関との連携のもと、被害者相談窓口等の周知を行う必要がある。

現計画の評価

別紙4 「第9次宇都宮市交通安全計画の実績評価について」

◆評価

- 現計画は、交通事故発生件数、死者数、負傷者数とも目標の達成には至っていないものの、交通事故に係る各目標指標とも改善傾向にあることから、現時点において一定の効果を上げていると考えられる。

(課題等)

- ・高齢者の交通事故傾向を踏まえた施策を展開する必要がある。
- ・自転車の交通事故を防止する施策を展開する必要がある。